

# 平成27年度における大竹市の決算状況

## 1 収入及び支出の状況

平成27年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は、第1表、第2表のとおりです。

一般会計における**歳入総額は、136億782万727円（対前年度比2.7%増）**、**歳出総額は、132億8,771万3,227円（同比1.2%増）**となり、歳入・歳出決算額とも前年度を上回りました。

形式収支は、3億2,010万7,500円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源1,010万4,892円を差し引いた残額、すなわち**実質収支は、3億1,000万2,608円**となりました。

### （1）歳入の状況

財源の根幹となる市税は、固定資産税が約1億9,275万円減少したものの法人市民税が約1億8,554万円、個人市民税が約1,658万円増加したこと等により、**市税全体では約962万円（対前年度比0.2%）の増**となりました。

また、地方交付税は約2億877万円（同比15.6%）、地方消費税交付金は約2億3,369万円（同比69.8%）の増となりました。

市債は、臨時財政対策債や建設事業債の発行はあるものの、自然公園整備事業の減等により、約1,379万円（同比0.7%）の減となりました。

### （2）歳出の状況

歳出は、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと、「大竹市が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう、次の事業に取り組みました。

- ① 大竹を愛する人づくり
- ② 生活基盤が整ったまちづくり
- ③ 安全なまちづくり
- ④ 安心できるまちづくり
- ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
- ⑥ 行政・社会の仕組みづくり
- ⑦ 住みたい、住んでよかったと感じるまち

## ① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは、大竹が好きな人をつくることであり、まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち、事業を実施しました。

具体的には、児童と教職員の安全と適切な教育環境を確保するための耐震化対策として、講堂（体育館）の耐震補強工事を実施し、校舎の改築工事に着手した「**玖波小学校施設整備事業**（4億8,779万円）」などを行いました。

## ② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」、「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや、基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から、事業を実施しました。

具体的には、市内における消費喚起・拡大を促進し、地域経済の活性化を図るために、大竹商工会議所が実施したプレミアム付商品券を発行する事業に対して、補助金を交付した「**プレミアム付商品券発行事業**（3,111万円）」などを行いました。

## ③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に、次に決め手となるのは「災害や犯罪、事故、火災などに対して、安全が確保されているか」ではないかという考えから、どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

具体的には、電波法改正に伴い、消防救急無線をデジタル化するとともに通信エリアを広げ災害対応の充実を図るため、基地局を2局、車載無線機を13台、卓上無線機3台、可搬無線機1台、携帯無線機17台を整備した「**消防救急デジタル無線整備事業**（1億1,117万円）」などを行いました。

## ④ 安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは、ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度、つまり、高齢者福祉や児童福祉、医療体制などの充実ではないかと考え、事業を実施しました。

具体的には、生活保護に至る前の段階にある生活困窮者の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立に向けた3つの支援事業（自立相談、就労準備、家計相談）を大竹市社会福祉協議会（よりそいサポートセンター）に事業委託し、自立に向けた支援を行った「**生活困窮者自立支援事業**（1,727万円）」などを行いました。

## ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは、「ゆとり」や「豊かさ」、「生きがい」など、生活の質の向上ではないかと考え、「生涯を通して生きがいを持ち、生き生きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

具体的には、建築物の耐震改修の促進に関する法律の改正に基づき、耐震診断の実施と結果報告が義務付けとなる大竹会館の旧館部分の耐震診断を実施した「**大竹会館耐震診断事業**（事業費190万円）」などを行いました。

## ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには、「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金）」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い、実りの多いまちづくりをする」という視点と、健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し、事業を実施しました。

具体的には、市内外の方へ大竹を愛する人づくり、定住促進及び子育て支援に取り組む姿勢を積極的にPRするため、魅力的な情報を速やかに提供できるホームページに更新した「**魅力発信力強化事業(市ホームページ更新事業)**（事業費629万円）」などを行いました。

## ⑦ 住みたい、住んでよかったと感じるまち

市外の人が「住みたい」と思い、実際に住んでいる人が「住んでよかった」と感じるまちを目指すことが、「よいまち」の実現につながると考え、事業を実施しました。

具体的には、わがまちプランに掲げる将来像「笑顔・元気・かがやく大竹」の実現のために施策を展開するにあたっての視点である重点取組方向および各施策の基本方針を定めた後期基本計画を策定した「**第五次大竹市総合計画後期基本計画策定事業**（事業費35万円）」などを行いました。

※ 事業費は普通建設事業費（事務費等を含む）ベースで算定し、整数未満を端数処理しています。